



週報

WEEKLY REPORT 2024-2025



事務所 三重県伊賀市西明寺2756-104 ヒルホテルピア伊賀内
TEL 0595-24-4650 FAX 0595-24-4656

例会 毎週木曜日 12:30点鐘 第3・第5週例会 18:00点鐘
ヒルホテルサンピア伊賀 TEL 0595-24-7000

2040No.11

URL: <http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/> e-mail: u-eastrc@ict.ne.jp

本日の例会

第2041回 2024年10月10日 (木)

- 開会点鐘 12:30
- ロータリーソング『我らの生業』・歌唱指導『ちいさい秋みつけた』
- 食事の時間
- 出席報告
- 会長の時間
- 幹事報告
- ニコニコボックスの報告
- 委員会報告・同好会報告
- ロータリーの友読みどころ
- 本日の行事 伝統と革新「大田酒造のつなく未来」
大田智洋様 大田有輝さま
- 閉会点鐘 13:00

前回の例会

第2040回 2024年10月3日 (木)

- 開会点鐘 12:30
- 国歌斉唱『君が代』・ロータリーソング『奉仕の理想』
- 食事の時間
- 出席報告
- 会長の時間
- 幹事報告
- ニコニコボックスの報告
- 委員会・同好会報告
- 本日の行事 新会員卓話 (樋口会員)
米山月間の因んで (神崎会員)
- 閉会点鐘 13:30

幹事報告 山森幹事

本日の理事会にて

- ・11月のプログラム承認
- ・出席状況報告について
- ・親睦旅行承認
- ・地区大会について
- ・熊野RCとの会長交換卓話
- 例会について
- ・早朝例会について



出席報告 乾委員

正会員37名 欠席3名、免除者3名
出席率 88.23%



会長の時間

皆さんこんにちは。

今週末は名張で地区大会が開催されます。今回、亀井ガバナーからの応援のお願いがあり、上野東RCから松本会員・中村会員・長谷川会員・鈴木会員・北澤会員の5名が代表として地区大会に応援に行ってください。伊賀地区での地区大会開催、盛り上がり成功することを願っております。それと今月は米山月間です。第三週目の夜間例会に昨年米山奨学生として1年間上野東RCに来ていた張茜茜さんがゲスト卓話者として来てくれます。卒業後の現況報告等色々とお話していただく予定です。以上です。ありがとうございました。

委員会報告

出後プログラム委員長より
10月のプログラム報告



ニコニコボックスの報告 瀧山委員長 『暑さ寒さも彼岸まで』

- 小林会長 樋口さん、神崎さん、卓話耳をダンボにして聴いています。
- 山森幹事 樋口さん、神崎さん、卓話よろしくお祈いします。
- 長谷川会員 樋口さん新会員卓話、神崎さん米山月間卓話ヨロシク。ネクタイ忘れました。
- 中井会員 お久しぶりです。早退のお詫び。
- 栗本会員・宮田会員・乾会員・中尾会員・伊藤会員・子日会員・神戸会員・中西会員・西会員・三山会員・中里会員・三谷会員・出後会員・平井会員・前田会員
樋口さん、神崎さん、卓話よろしくお祈いいたします。



新会員卓話 樋口会員

- ・現在の生業について
- ・女流建築家を目指して工業高校建築課に進学した経緯について
- ・周囲が男性ばかりの高校時代から社会人になり環境が変わった時の思いについて
- ・頼まれごとは試されごと



米山月間について 神崎会員

皆さんこんにちは、今月は米山月間ということで米山記念奨学会について少しお話させていただきます。

まずは、米山記念奨学会の名前にある米山氏についてお話しします。1920年（大正9年）に日本で初めてロータリークラブを設立した方が米山梅吉翁です。幼い頃から神童と呼ばれ、学業優秀であった梅吉は、19歳でアメリカに渡り8年の留学生活を送りました。家出同然で飛び出したため苦学生として働きながら勉強に勤しんだそうです。

1895年（明治28年）帰国、翌年、三井銀行に入行。財界の有力者となった彼は、海外視察の際にロータリークラブの存在を知り、その奉仕の理念に深く感銘を受け東京ロータリークラブを創設しました。

青年期のほとんどを苦学生として過ごした米山梅吉は、向学心がありながら学資に窮する学生の援助を惜しまなかったそうです。また、東南アジアからの留学性にも物心両面にわたる援助も行ったそうです。

第2次世界大戦が激化する中、日本ロータリークラブは解散を余儀なくされ日本にロータリークラブが戻ってきたのは、1949年（昭和24年）のことです。3年前にすでに米山翁は、他界され見届けることは、できませんでしたが、米山翁の遺業を記念する事業として奨学事業「米山基金」を立ち上げることとなりました。

この基金の目的は、戦後の日本が進むべき道は平和を追求することであり、特にアジア諸国に与えた大きな損害と迷惑を鑑みアジア諸国に平和日本を理解してもらうためには、1人でも多くの留学生を日本に迎え入れ、それを肌で感じてもらうこと、アジア地域のロータリー所在地より優秀な学生を招き、勉強の機会を与えることとなっています。

現在は、米山記念事業は、「救貧型」ではなく「知的貢献型」の目的事業となっており一般的な奨学事業の目的とされる「貧しい学生を援助する」ことよりも「将来アジアの架け橋になるような優秀な学生を支援する」こととなっています。

この事業は、奨学生は、単に毎月奨学金を受け取るのではなく、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーがついて、奨学生との交流を深め日本の生活が心豊かになるよう配慮されています。世話クラブのロータリー活動に参加し会員との交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨いて、人生観・職業観を高め日本の文化に触れていただくことも大切な目的となっています。当クラブも、昨年世話クラブとして張 茜茜さんを奨学生として迎え入れており今月の夜間例会で卓話をいただくこととなっています。毎年大勢の奨学生を受け入れ2024年度の奨学生は、889人となっており延べ2万人を超えています。

松本さんからお借りしたロータリー米山記念奨学会50年の歩みより奨学生の話がありましたので読ませていただきます。

～本を読む～



最後にこの素晴らしい事業は、ロータリーメンバーの寄付金で成り立っております。寄付金には、普通寄付金と特別寄付金に分かれており公益財団法人認可にあたり、当時の文部省より毎年確実な財源が確保されていなければならないと文句を言われ各クラブより決まった金額を寄付しているものです。米山月間ということもあり次回例会時に特別寄付金5,000円のご協力を皆さんにお願いしたいと思いますのでよろしくお願ひします。

ご清聴ありがとうございました。